

★グランプリ：「瀑布(ばくふ)」



作者：牧野紗千（倉敷市立短期大学）

「紙素材を織り込んだ際に、まるで高いところから流れ落ちる滝のように見え、その光景から白い水しぶきが立ちあがる壮大な滝をイメージしました。このイメージをもとに、綿糸と生地耳を交互に模様になるように織り、光の違いを表現しました。」

★審査員の投票数が断トツで1位でした！
画像で見ても、会場で見てもスッキリと洗練され、存在感がありました。

●エントリーNo3

●選出理由（審査員コメントより）

ランプシェードとして実用性もありアートとしても美しい作品と感じました。

生地耳（綿糸）と紙の素材で異なる光の通り方をする事への気付き、紙と生地耳のフワッとした質感の違いは灯りが灯っていなくても神々しい輝きを放っていると思います。現物を見て、どんな風に織り込んでいるのか知りたいと思わせ、また触れてみたいと思う作品です。

この作品は、紙素材と綿糸という異なる質感と光の通し方を巧みに組み合わせ、極めて独創的な光の表現を実現していると思いました。特に、素材の特性を深く理解し、光の通り方に繊細な対比を生み出すことで、単なる照明の役割を超えた芸術的な作品へと昇華させています。

作品のコンセプトには、滝の壮大なイメージが込められており、流れ落ちる水の動きや、白い水しぶきが飛び散る様子がランプシェードのデザインへ美しく反映されています。さらに光が当たることで、綿糸の柔らかな部分は温かく拡散し、紙の素材が使われた部分では光が鋭く通り抜け、空間に美しい光の模様が生み出されています。

この光と影の巧みな使い分けは、まるで自然の一部を室内に再現したかのような躍動感を感じさせ、鑑賞者を自然の雄大さへと誘います。

細部にまでこだわり抜かれた織りのデザインが、視覚的にも触覚的にも心地よい調和を生み出しており、見る者に深い感動を与えています。この作品は、光と素材が持つポテンシャルを最大限に引き出し、デザインの域を超えた深い芸術性を持っていることから、優秀賞にふさわしいと高く評価されました。

★準グランプリ：「くらげのオブジェ」



作者：大西恋菜（倉敷市立短期大学）

「生地耳をはじめて触ったとき、そのやわらかさに心地良さを感じました。この感覚がくらげを連想させたことから、作品制作に至りました。生地耳からはみ出た糸の自由さが、まるで海の中を泳いでいるようなくらげの姿を演出しています。」

★クラゲのパート毎に、違った動きや表情が出る工夫がされていて、生地耳の特性を生かしていました。

●エントリーNo1

●選出理由（審査員コメントより）

生地耳からクラゲを連想していくユニークな発想力、軽やかで浮遊するクラゲの特徴をうまく捉えています。

海の色や珊瑚を思わせるカラーを用い、傘の裾部分の生地耳が海中で漂う様を思い浮かべる事ができます。

自立したり変形したりの工夫がなされ、オブジェとして固定されたものではなく、生地耳の搖らぎや変化を楽しめる作品だと思います。